

# ÄKTApurifier 10/100 圧力チェックシート

## Check1

システムに原因があるか、カラムに原因があるかを調べます

オーバープレッシャーエラーが出る  
圧力が高い

Act1

送液をPauseボタンで一時中断し、カラムを取り外す  
(カラムの代わりにチュービングでバイパスする)

Continueボタンをクリックする

オーバープレッシャーエラーが出る  
圧力が高い

カラム洗浄

No

Yes (システム内に目詰まりがある)

Act2

システムをMilli-Q水に置換して Check 2 へ

(操作)

- 1、Manual ↓ Pump ↓ PumpWashPurifier ↓ A1,B1選択 ⇒Execute
- 2、Manual ↓ Pump ↓ Flow →5ml/min ⇒Execute  
約5分後、ENDボタンをクリックし送液を止める

## Check2

### プレッシャーセンサーで圧力を正しく計測できているかを調べます

**Act1** (システム内Milli-Q水の状態で)

**Aポンプのパージバルブ2箇所を手前方向に2回転し、完全に開放する**

※この時重力落下により、バッファボトル内のMilli-Q水が各パージバルブから滴下してきます。紙タオル等を下に敷いてからパージバルブを開いてください。

※※パージバルブからMilli-Qの滴下が見られない場合、ポンプ内に気泡がかんでいる可能性があります。

簡易マニュアル3.3項 ポンプのパージの手順に従いエア抜き作業をしてください

**圧力表示 0.00MPa (または0.05MPa)**

**No** (それ以上)  
センサーのゼロ値が  
プラス側にずれています

**YES**  
(正常ですが、  
センサーのゼロ値がマイナス側にずれている  
可能性もあります)  
パージバルブを閉めて先に**Check3のAct1**を実施し、  
0.15M Pa以下だった場合、この続きを行います

**Act2**

**センサーのゼロ設定 (キャリブレーション) を行う**

(操作)

パージバルブ2箇所を開放したまま、SystemControl画面より

Systems ↓ Calibrate ↓ P-900 Pressure を選択し、Calibrateボタンをクリック

# Check3

## システム内のどこに原因があるか調べます (FR-902が取り付けられている前提の内容です)

Act1

システム内Milli-Q水  
カラムなし  
Gradient ; ConcB% 0%  
Flow 1 ml/min  
⇒Execute

圧0.15~0.35MPa

Yes

システム圧問題なし

No

(0.15MPa以下)

圧力が正しく計測できていない可能性があります  
Check2へ戻ってください

(0.35MPa以上) システム内に目詰まりがある

Act2

Gradient ; Conc%B 0%  
InjectionValve ↓ Waste ⇒ Execute

圧0.10 MPa以上

No

弊社技術サービス部へ連絡

(InjectionValveより下流の詰まり)

Yes

(InjectionValveより上流の詰まり)

Act3

オンラインフィルター洗浄

AKTApurifier 10の場合 : [https://www.cytivalifesciences.co.jp/tech\\_support/akta/filter\\_10.html](https://www.cytivalifesciences.co.jp/tech_support/akta/filter_10.html)

AKTApurifier 100の場合 : [https://www.cytivalifesciences.co.jp/tech\\_support/akta/filter\\_100\\_fplc.html](https://www.cytivalifesciences.co.jp/tech_support/akta/filter_100_fplc.html)

オンラインフィルター洗浄後、再度Check3のAct1を行う